

とみけいニュース

発行 第65号

発行元
富山経済会
発行日
2020年5月20日
編集
広報委員会



2020年度会長挨拶

有限会社インテリアの小倉

代表取締役社長 小倉孝之

「人生とはその時々々に自然に変化し移りゆくものだ、変化に抵抗してはならない。それは悲しみを招くだけである。」老子の言葉

国難とも言うべき新型コロナウイルスの現状を今、目の当たりにして非常に胸の締め付けられる思いです。

当初中国から始まったこの様な地球規模でのウイルス被害を誰が予想し得たでしょうか？

今後、どれ程まで拡大していくのかまた終息宣言は本当に出されるのかも今のところ混沌として、数か月先の事も一切予測不可能な状況となっています。

各業界の会友の皆様におかれましては、それぞれのポジションでのこの一大危機の局面を卓越した叡智と鋼のような勇氣を持つて是非乗り切つて行かれる事と信じております。

また、私ども異業種間での経営に携わる者同士でより密に情報交換を行い、適切なアドバイスを付与し合い、少しでも地域の経済の停滞を遅滞なく取り除き、従来の活性化された経済活動に一日でも早く取り戻すべく会員の皆様にご協力をお願い申し上げます。

この難局の今年度より新たに会長の職に任ぜられ、身の引き締まる思い

と同時に会員の皆様のご理解とご協力を頂き、今年度この会を盛り上げるべく東奔西走していきたいと思っております。

何卒、諸先輩の方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



2019年度会長 株式会社鈴木亭
代表取締役会長 鈴木 孝

会員の皆さま、三役、各委員長に助けていただき、一年間ありがとうございました。

各事業、行事にも大勢の参加で楽しい思い出ばかりでした。

富山経済会の魅力とは？

①異業種の集団(様々な情報が得られる)、②年齢差、地位等によつての壁がない、③和気あいあいである。

新型コロナウイルス問題で大半の業種の皆様がかき回されている中、新年度を迎えますが、会員30名を目標に、新規企画の提案、相互扶助の強化を小倉会長に期待します。



今回は、2019年3月にご入会された「株式会社アルセ」代表取締役 奥田武詩さんに池松広報委員長と事務局がインタビューしました。今年2月におすすめの健康食品についてたくさん話をいただきましたが、さらに深く会社やプライベートについて1階のビストロジェラフにて行いました。

株式会社 アルセ 代表取締役 奥田 武詩 氏



◎ 会社について

会社の母体である(株)ヘリックスファーマは、調剤がメインの薬局で、子会社の(株)アルセは、薬局と健康食品・介護用品・化粧品(対面販売)等総合的で、(株)エラブルは、訪問介護です。(株)ヘリックスファーマでは、常務取締役で他に富山県薬剤師会は理事、日本薬剤師会は代議員をしています。

はなの木薬局の「はなの木」についてですが、母体である(株)ヘリックスファーマがある岐阜県の恵那山周辺に多く自生する絶滅危惧種に瀕しているカエデ科の植物で、4月初めは濃い紅色の花を咲かせ、5月には翅果(しか)が樹全体にぶら下がります。



会社では、良質な医療を提供する際に、すべては患者さまのためである事を念頭に考え遂行していかなければならないと考え、私たちの使命と探求していき、質と和の2つのキーワードは、仕事を進める上で大変重要な判断基準としています。

社是 この町で最も魅力的な会社を造りましょう ~質と和を大切にして~
使命 心と身体の健康に貢献する

このまちに「はなの木」があってよかった。そう言っていただけるような存在でありたい。そのためにも、顧客満足、社員満足そして…地域満足の向上に努めます。

化粧品事業、訪問介護、既存店舗の質の向上、地域にしっかりと根をはわせての取り組み、事業拡大は慎重にしています。地域とのかかわり方を優先し、会社として従業員が同じ目標をもって歩んでいます。

また、健康をお守りする使命、地域の方から必要とされる薬局でありたく、在宅医療の薬剤管理、地域医療連携として中学校区をエリアとして守っていく地域包括支援センターと連携して、病院ではベッド数が足りないので自宅で療養し地域がひとつの病院になることに取り組んでいます。

そして、アピタ富山店にある化粧品部門 ヘルス&ビューティはなの木 H&B では、資生堂が半分を占め、購買層は40歳代以上の方で、ドラッグストアでは販売していないカウンセリングを主体にしているハイブランドの化粧品を扱っています。



◎ 仕事内容

薬局事業は、富山・石川・岐阜に12店舗あり、全体の統括(運営及びサポート・経営戦略・売上経費管理等)、業務管理及び販売促進(社員教育・保険調剤業務・在宅医療推進対外交渉・健康食品・介護用品・化粧品販売促進)、営業及び開発(取引・価格交渉営業・価格交渉や、どのメーカーのジェネリックを使うか等の薬剤採用等)、人事採用(薬剤師、医療事務)また東京へ研修会、営業、化粧品販売に関することの統括を行っています。



◎ 休日・趣味のこと

休日は子供と公園に行き遊んでいます。趣味は、マラソン・ロードバイク(竹内さんの影響)・ゴルフです。マラソンは、富山マラソン・清流マラソン・湾岸サイクリング、あと社員がスポーツ好きで秋にリレーマラソンに参加しています。小学校から剣道していて、高校は空手、大学はアメフトをしていました。



◎ 入会されていかかですか

地元の経営者の方とあまり面識がなかったのですが、大変勉強になりよかったです。快く受け入れてもらえました。

◎ **健康食品**（2月に紹介した商品）**レバコール**…カツオの肝臓エキスの必須アミノ酸ドリンク。増血、浄血効果、滋養強壮に。若甦…薬用人参、牛黄チンキ、ビタミン配合、滋養強壮に。**ミラグレイン**…メチオニン、タウリン、ゴオウ、グルクノラクトニンイノシトール、ビタミン類を配合、お酒を飲む機会の多い方に。他に、**サラシア健寿葛**、**アルツハイチャージ**がありました。

奥田さんの講演が皆さんに評判が良く、また次回お願いしたいと思いました。2019年広報委員長 池松

下関・萩・歴史深訪の旅

吉田 信三

2月に仕事で付き合いのある知人と、3度目の旅行に出かけてきました。行先は福岡・山口県に。金沢駅で合流し車で小松空港へ行きそこから福岡空港へ。

レンタカーを借りて最初に門司にある出光美術館を見学しました。出光興産の創業者 出光佐三氏（1885～1981）が1911年に門司、現在の鎮西橋交差点近くに機械油の販売店「出光商会」を創業した跡地近くに、2011年、出光の創業百周年を機に改装された施設です。

海賊と呼ばれた男の生きた時代、日清・日露戦争に始まり、二度の世界大戦、戦後復興、経済大国への道とまさに激動の時代を、どのような志と理念を掲げ事業経営に取り組んだのか、そのあゆみについての展示、その当時の出来事を有名な俳優に出演させ映画化して映像で、分かりやすく紹介してあり胸が熱くなりました。そして副館長のご厚意で2階の特別展示室も見せていただき美術館を後にしました。

昼食は門司のふぐ懐石でお腹を満たし、日清講和記念館へ向かいました。1894年夏、朝鮮半島の権益をめぐって対立していた日本と清国の間で日清戦争が勃発しました。

戦況は、日本軍の圧倒的優勢に進み、同年十一月頃から清国は講和を模索し始めました。

1895年3月20日から下関の料亭春帆楼で日清講和会議が開催され、この会議には日本全権の伊藤博文、陸奥宗光、清国全権の李鴻章らが出席し、4月17日に講和条約が調印されました。この歴史的意義を後世に伝えるため、1937年6月講和会議の舞台となった料亭春帆楼の隣接地に開館した施設です。

明治時代に入り外国との貿易や領土問題など難しい外交に奔走していた先人の偉業を垣間見る時間でした。

車を下関市から東の山口市へと1時間走らせ、今日の宿に到着。山口市内にある湯田温泉「松田屋ホテル」に宿泊しました。

この宿は薩摩藩主の西郷隆盛、大久保利通、小松帯刀が薩長同盟のために、山口を訪問した折、長州藩の桂小五郎、伊藤博文と面談した場所と知られているところです。

郷土の料理と地酒に杯がすすむ思い出に残る夜となりました。翌朝、8時に宿を出発し一路北の萩市へ向かい、おおむね1時間で到着。

2月の中旬でしたが、天気にも恵まれ暖かな日差しの中、萩反射炉跡地に立ち寄りしました。

史跡の入り口に、萩の観光案内ボランティアの方がいて、1850年頃、欧州列強に対する危機感が高揚した江戸時代後期、蘭書によって日本に反射炉の知識がもたらされ、鉄製の洋式大砲を作ろうと試行錯誤しましたが、萩藩は最終的に技術面・費用面の限界から本式の反射炉を断念したとの説明で産業化初期の段階の取り組みの様子を物語っています。

萩市は、平成27年(2015)7月、世界遺産(文化遺産)に登録された「明治日本の産業革命遺産」の点在する23資産のひとつです。

萩市の城下町には、吉田松陰(1830～1859)が主宰した松下村塾で学んだ塾生・門下生たちが暮らし、高杉晋作(1839～1867)、久坂玄端(1840～1864)、伊藤博文(1841～1909)、山形有朋(1838～

1922)、木戸孝充(1833～1877)などが教育を受け、志士としての活躍、英国への留学を経て明治政府の礎と活躍、その彼らが暮らした旧宅を見学して、その時代に思いをはせる旅でした。



IT（アイティ）とは、Information Technology の略称で、日本語では「情報技術」と言われます。私が IT 関連の会社を創業して 24 年、言うまでもなくこの間 IT によって社会は大きく変化しました。

自分自身を振り返っても、友人・知人との連絡、取引先との業務上のやりとり、個人的な買い物、業務上の仕入、銀行のオンライン決済、移動手手段となるチケットの確保、宿泊の予約、わからない言葉を調べたり、目的地までの経路を調べたり等々、インターネットの利用なくして今の生活は考えられず、仕事柄ということだけではなく、すっかりと IT 社会の住人になっていることを痛感します。

パソコンが世に出てきて、それまでの手書きや電卓技術や記憶・ノウハウなど人の労力で賄われていた事務作業が大変効率化され、パソコンはまず仕事の場面で広く使われるようになりました。そしてインターネットが登場し、スマートフォンが登場し、仕事での利用価値がさらに向上したことはもちろんのこと、生活のあらゆる場面で作業は効率化され、色々な手間の軽減・時間の短縮が成されています。さらには今現在でも、より効率的であること、より時間短縮できることを求めて、IT は進化を続けています。

一方、進化を続ける IT 社会、進んでいく効率化の中で、失われているものも多くあります。効率や時短が求められる風潮に押され、「ゆとり」や「余裕」を持つことが難しくなっています。また、なんでも自分でできるように IT 化の進む社会が後押ししてくれているため、誰かに相談することや誰かに助けを求めることの前に、自分で調べてみたか、自分でトライしてみたか、を求められるような暗黙のルールが広がっています。

またインターネットのグローバルさは、物理的に自分の近辺ではない広い世界と容易に繋がれるような環境を生み出し、そちらに時間を割くことが増えたために、家族や地域、同僚や地元の友人知人といった物理的に身近である人との関係性が希薄になっているという現象も多くなっています。

加えて、IT の進化は機械が覚えてくれる情報量を圧倒的に増やしました。例えば電話番号を語呂合わせなどで覚えなくてよくなったように、知恵を使って楽しく苦勞する機会が減っただけでなく、ありとあらゆる情報がインターネット上に存在するようになったことから、自分の頭の中に情報をしっかりとストックしておく必然性が薄れ、キーワードだけを覚えて必要なときに調べる、というようなことが普通なこととなりました。つまり情報を頭の中に留めておくことが求められなくなってきました。

IT により得てきたモノと失いつつあるモノ。これからの IT に求められる次の進化を考えると、この両方をどれだけ感じ取れるかが、この先の社会の在り方を大きく変えると感じています。ヒトが使いこなしてこそその技術（テクノロジー）であり、技術によってヒトの在り方が変わってしまうことは、望ましい未来のカタチとは思えません。

ヒトはバージョンアップや容量追加して進化するものではなく、年を重ね経験を積み、出逢いと別れを繰り返して感情を育て、進歩していくものです。そんな「人間らしい」生き方の助けとなる上で IT が活用されていく社会が、私の描く、より良い未来です。技術の発展に押され、ヒトが置き去りになるようなことが、これ以上あってはならないと思います。

その想いを胸にこれからも、仕事としての IT と関わっていきたいと思っています。



新型コロナウイルスにより定例会は、5月は自粛となりました。平穏な日々に戻りますように心から願います。事務局